



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
3/17 (月)	+ 100	▲ 4,900	▲ 4,800	国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行償還 (個人) 流動性供給	国債補完供給 + 2,825 貸出増加 ▲ 60,000	貸出増加 + 18,700	米: 小売売上高 (2月)
3/18 (火)	トン	+ 8,000	+ 8,000				日: 日銀金融政策決定会合 (1日目) 米: FOMC (1日目)
3/19 (水)	トン	+ 5,000	+ 5,000		共通担保 ▲ 8,000		日: 日銀金融政策決定会合 (2日目) 米: FOMC (2日目) 欧: ユーロ圏CPI (2月)
3/20 (木)	春分の日						
3/21 (金)	トン	+ 70,000	+ 70,000	国庫短期証券発行償還 (1Y) 国債償還 (5年・10年・20年)			日: CPI (2月) 欧: ユーロ圏消費者信頼感指数 (3月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比7,300億円増加の520兆2,900億円から始まった。その後、国債発行や国債買入等の要因により増減し、14日は518兆7,200億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初0.478%から始まり、一部で試し取りが行われたことから週央にかけて0.479%まで上昇したものの、その後は試し取り要因が剥落したことから低下し、0.477%で越週した。

ターム物は1W~3W物0.35%~0.65%のレンジ、1M~3M物0.57%~0.65%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、18・19日に日銀金融政策決定会合、21日にCPI (2月) が公表され、海外では18・19日にFOMC、19日にユーロ圏CPI (2月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.47 ~ 0.478
1M	0.55 ~ 0.70
2M	0.55 ~ 0.75
3M	0.58 ~ 0.80
6M	0.65 ~ 0.90

<レポ>

足許GC取引は週初から週末まで+0.47%~0.48%の狭いレンジで取引された。輪番オペのあった11日の取引も水準に変化は見られなかった。短国の発行があった週末は+0.49%近辺の出合いも見られた。

SC取引は2年460~468回債、5年155~177回債、10年355~370回債、20年110~130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40近辺
CP 3M	0.60 ~ 0.65

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆6,500億円で、週間償還額の1兆5,300億円を上回った。発行残高は先週末時点の25兆4,042億円から、3月13日時点で24兆8,177億円に減少した。発行市場は、鉄鋼、石油製品、建設業、不動産業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.50%台前半、3か月物は0.60%台前半から0.60%半ばでの発行気配が見られた。

来週の償還額は、1兆5,600億円となっている。発行市場は引き続き一般事業法人の有利子負債圧縮が進み、落ち着いたマーケットが見込まれる。発行レートは、3か月物を中心として投資家の目線感が上昇し、1か月物で0.50%台前半、3か月物で0.60%台半ばから0.60%台後半での出合いを予想する。

<TDB>

14日の3M (1293回債) の入札は、最高落札利回り0.3131% (前回債0.3532%)、平均落札利回り0.3070% (前回債0.3404%) となった。来週の入札は21日に3Mが予定されている。